

小学校19

平成 10 年 度

# 教育研究員研究報告書

音 楽

東京都教育委員会

平成10年度

音楽教育研究員名簿

地区	学校名	氏名
港	港陽小	武田一郎
江東	東砂小	伊東京子
品川	第二延山小	日高陽子
世田谷	等々力小	田中由紀子
杉並	三谷小	△辻本啓子
北	滝野川第六小	本田洋子
練馬	谷原小	長岡美智子
足立	花畑小	△阿見玲
八王子	中野北小	湊りか
立川	柏小	□庄司こずえ
武蔵野	第三小	◎横沢源
東久留米	神宝小	□磯部透

◎世話人 □副世話人 △記録

担当 教育庁指導部中学校教育指導課 原田 徹

# 目 次

## I 研究主題と研究の概要

1 研究主題設定の理由 .....	2
2 児童の実態 .....	3
3 目指す児童像 .....	4
4 研究仮説 .....	4
5 研究の全体構想図 .....	5

## II 研究の内容

1 題材の工夫 .....	6
2 学習過程の工夫 .....	7
3 お互いのよさを認め合う学習形態の工夫 .....	8

## III 実践例

【実践1】 第3学年 「ひびき合いを感じて」 .....	9
【実践2】 第4学年 「イメージを広げて表現しよう」 .....	14
【実践3】 第5学年 「グループアンサンブルを楽しもう」 .....	19

IV 研究の成果と今後の課題 .....	24
----------------------	----

## I 研究主題と研究の概要

### 児童が生き生きと音楽活動をするための指導の工夫 ～一人一人の思いや願いを大切に～

#### 1 研究主題設定の理由

児童が社会の変化に主体的に対応して心豊かに生きていくことができるように、音楽科では、授業を通して、自らのよさや可能性に気付き、意欲的に課題に取り組むことができ、友達とかかわりながら音楽活動を行うことができるようにすることが重要であると考えます。

本研究員が行ったアンケート調査によると、児童は音楽の授業に対して「楽しいな」「やってみたいな」「うまくなりたいたいな」などの、思いや願いをもっていることがわかった。このような児童一人一人の音楽に対する思いや願いを教師が受け止め、授業の工夫をしていくことが大切である。児童が具体的なめあてをもち、主体的に音楽活動を行う中で、お互いのよさを認め合いながら、友達と協力して音楽をつくりあげる楽しさや喜びを味わう姿が、生き生きと音楽活動する児童であると考えた。

しかし、実際の授業では、児童にとって得意な活動もあれば不得意な活動もあり、楽曲に対する興味・関心も多様である。そのため、活動内容によっては意欲的に活動できない児童もいる。

そこで、本研究では、児童一人一人の思いや願いを把握したうえで、児童が生き生きと音楽活動をするための教師の指導の工夫について、以下のような3点の研究の内容を設定し、授業研究を通して検証することにした。

#### ◎題材の工夫

児童が自分の思いや願いを生かしながら、主体的に音楽活動できる  
題材や発達段階に応じた教材の工夫

#### ◎学習過程の工夫

児童が自分のめあてをもって取り組めるような学習過程の工夫

#### ◎お互いのよさを認め合う学習形態の工夫

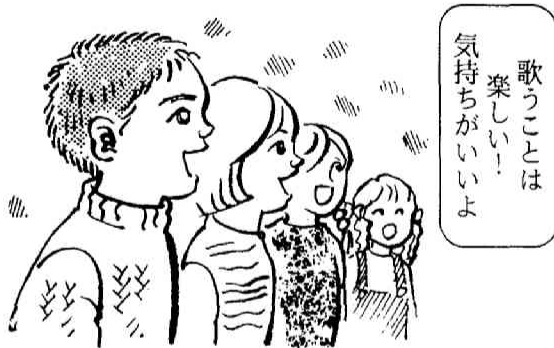
お互いのよさを認め合い学び合っていく学習形態の工夫

上記の研究の内容について、実際の授業の中で、視点を明確にしながら展開していくことにより、児童は満足感や達成感を味わうことができ、自ら学ぶ楽しさや喜びをもって音楽活動に生き生きと取り組むようになると考え、本主題を設定した。

## 2 児童の実態

児童の実態を把握するため、研究員所属校においてアンケート調査を行った。調査結果や日常の授業の様子などをもとに、児童の実態をまとめた。

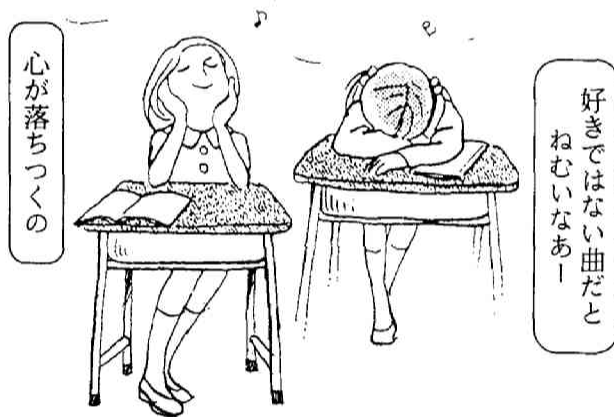
(1)歌うことの好きな児童が多い。



(2)合奏・楽器の演奏への興味、関心が高い。



(3)音楽を聴くことは好きだが、  
学年が進むにつれ曲の嗜好がはっきりしてくる。



(4)目標を達成した児童は成就感を味わう。



(5)友達と心を通わせて音楽活動することが楽しい。

(6)友達や先生に認められるのはうれしい。



(7)歌や楽器を演奏することが嫌いな理由

技能面

- ・うまくできない
- ・難しい
- ・演奏するのは疲れる

興味・関心

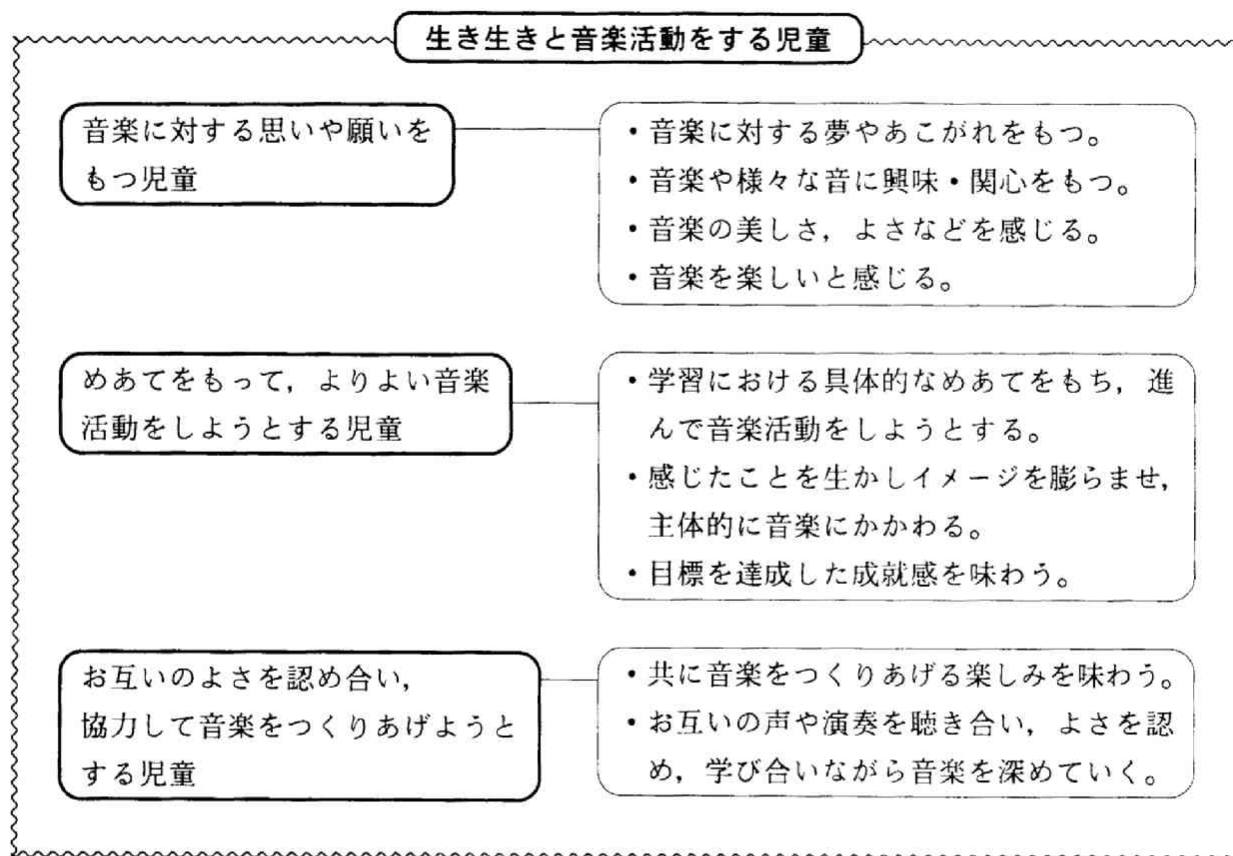
- ・つまらない、曲が嫌い

人間関係

- ・笑われる
- ・恥ずかしい
- ・友人関係

### 3 目指す児童像

児童の実態や日頃の実践における課題、生き生きと音楽活動をしている児童の様子などの情報を交換し、目指す児童像を導き出した。



### 4 研究仮説

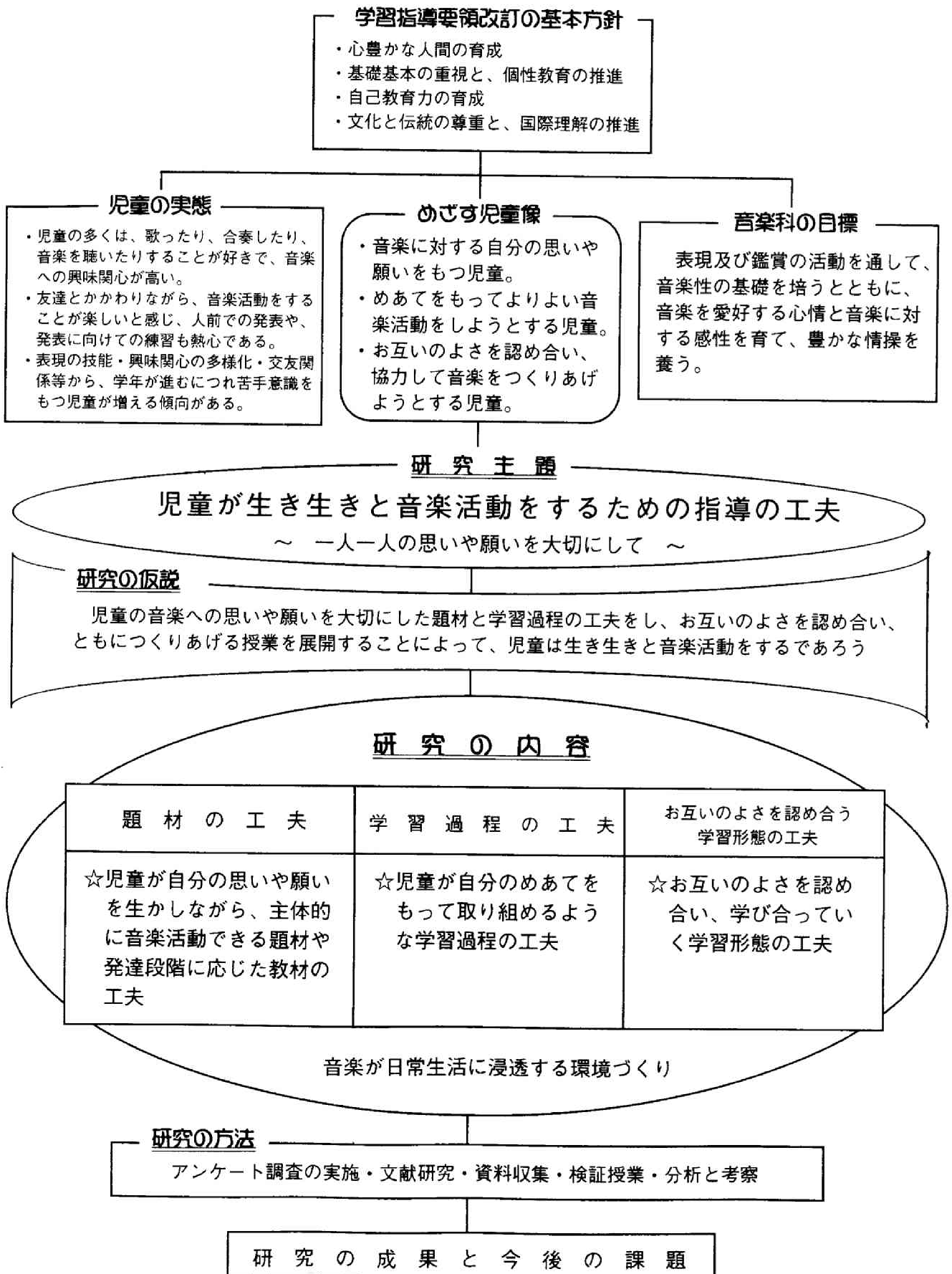
児童の実態や目指す児童像を明らかにしながら、児童が生き生きと音楽活動をするためには、次の点が大切だと考えた。

- (1) 児童が、音楽の楽しさや美しさやよさなどを感じ、音楽に興味・関心をもつこと。
- (2) 教師が児童の実態をよく見つめ、思いや願いを受け止めるようにすること。
- (3) 児童が思いや願いをもちイメージを膨らませ、めあてに向かって音楽にかかわること。
- (4) 児童同士、児童と教師がともに音楽をつくりあげる喜びや楽しさを味わうこと。
- (5) 一人一人の音楽経験や音楽への思いや願いが、次の音楽活動や学校生活および日常生活に生かされるようにすること。

以上の点を大切にしていくことにより、児童は生き生きと音楽活動をするであろうと考え、次のように仮説を設定した。

児童の音楽への思いや願いを大切にしたい題材と学習過程の工夫をし、お互いのよさを認め合い、共に作りあげる授業を展開することによって、児童は、生き生きと音楽活動をするだろう。

5 研究の全体構想図



## Ⅱ 研究の内容

研究主題に基づいて次の3点を中心に研究を進めた。

- 1 題材の工夫
- 2 学習過程の工夫
- 3 お互いのよさを認め合う学習形態の工夫

### 1 題材の工夫

題材は、音楽の授業を行うための大切な指針である。年間指導計画に題材を効果的に配置することは、学習への意欲を高め、楽しい音楽活動を行うために重要である。そのため、本研究員は年間指導計画を分析し、自分たちの日常の指導を見直してみた。その中で「児童は音楽の授業をどのように考えているのだろう」という視点から児童にアンケート調査を行った。アンケート調査の結果、「目標を達成した児童は成就感を味わう」ということがわかった。

そこで、成就感を味わうためには、児童が思いや願いをもち、イメージを膨らませることのできる題材を工夫することが必要であると考えた。そのために、児童自らが内容を理解し、主体的に活動できるような題材を工夫すること。また、学習活動の最初に、児童へ題材を示すことにより、めあてをもって積極的に音楽活動に取り組むことができると考え、題材の設定を工夫した。

#### (1) 児童の思いや願いを生かせる題材の工夫

実践2の題材に「ぼくらのチキチキバンバン号で旅をしよう」や実践3に「わたしたちの変奏曲になるように」といったサブテーマをつけることで、世界に一つしかない自分たちの曲という意識をもつことができ、児童が満足感や成就感を得ることができた。

そして実践2では、既成曲を合奏することにとどまらず、教材性を生かして自由に音づくりをする部分を取り入れ、音楽を表現する力をのばせるよう題材の工夫を図った。

実践3のグループアンサンブルでは、「きらきら星」の変奏曲を自分たちのイメージに合った楽器や伴奏型を選んで合奏をし、完成したそれぞれの変奏曲をつなげて、クラスの変奏曲にするという発展性をもたせることもできた。

#### (2) 児童の実態に合った教材選択

実践2の教材選択では、児童にとって歌いやすく親しみやすい曲の「チキチキバンバン」を選曲した。これは、合奏する前に歌唱をすることによって、合奏への興味・関心をもたせることもできた。

また、実践3のグループアンサンブルでは、「きらきら星」という、児童になじみがあり簡単な和音で表現できる易しい曲を選択し、リズムや曲の感じを変えることにより音楽の楽しさを味わうことができた。

実践1の合唱導入の指導では、児童にとって無理のない段階をふむことのできるわらべ



うたを使い、ユニゾンで歌うことからオスティナートを加え、カノンにつなげて合唱に発展させることをねらいとした。

このように、一人一人の音楽的能力や特性を把握し、無理なく主体的に進められるような、段階に応じた題材や教材の工夫も大切である。

## 2 学習過程の工夫

学習過程を工夫するためには、児童の活動状況を常に把握し、活動を振り返るための評価を行うことが大切である。そして、児童が表現の工夫をさらに行えるよう教師は支援しなくてはならない。

### (1) 学習の場や機会の工夫

教師側からの一方的な指示ではなく、教材や楽器の選択など、時には児童に選択する場を与えることや、児童一人一人にめあての設定を考えさせ見つけさせることも重要な音楽活動である。実践2や実践3では、グループに分かれての活動を音楽室だけでなく、他教室も使用した。このように児童に十分な活動場所を確保することにより、お互いの音を聴き合いながら心の中に膨らませたイメージを生かして、表現を工夫することができた。活動場所は、児童の相談や意見交換が行われる場ともなる。そしてそのためには、教師が計画した以上に活動時間の確保も必要であることがわかった。

また、グループに「ひらひらモール」「のりのりロック」のように児童が興味をもち、取り組める名前や、活動場所に「スタジオ1」「スタジオ2」といった児童の喜びそうな名前をつけることで意欲をもって取り組むことができた。

実践1では、低学年で遊んだり歌ったりしたわらべうたを高学年の合唱につなげるために、授業の導入部分で、楽しく歌いながら体で感じ遊ぶことを行った。そのために、わらべうたで遊べるスペースを確保した。

### (2) 教師の適切な支援

アンケート調査では、音楽の時間での「楽しかったこと」や「つまらなかったこと」は、教師や友達のことばかけが影響してくるという調査結果がでた。このことは教師に誉められたり、友達が声をかけてくれたときの喜びもあれば、教師に注意されたり、友達とのトラブルで一瞬にしてつまらない時間になってしまう場合もあることを示している。

実践1では、わらべうたで楽しく活動するために、自分勝手に歌ったり、友達の声が聴き取れないほどの大声で歌ったりしないように助言した。そうすることで、まわりの声を聴き、合わせようとする気持ちが育ってきた。また、グループの活動では、グループ内で音がそろわなかったり、リズムが合わなかったりした場合に、お互いに協力できるように、アドバイスするなどの配慮をした。

実践2においても、音楽の技術面に配慮しながらバランスの取れたグループ分けをした。そして、発表を行った後には、積極的にプラスの評価が児童から出るようにした。また、練習の順序、アドバイスカード、合奏のルールや音づくりにあたってのヒントの掲示など、こまやかで適切な教師の支援とことばかけがなされた。

### (3) 視聴覚機器や学習カードの活用

実践2では、教材「チキチキバンバン」のビデオを鑑賞することによって物語を知り、楽しみながら曲へのイメージを広げ、音づくりの表現の工夫へとつなげることができた。実践3では、学習の導入で「ちょうちょ」をマーチ、ラテン、ロック、ワルツ、モールに変奏し、シンセサイザーで作成したデモテープを児童に聴かせた。この活動で、児童は変奏曲へのイメージがもちやすくなった。また、それぞれのイメージのグループに分かれ練習するとき、合奏をテープに録音して聴き、さらに工夫することができた。

実践2では、曲の印象や思いをカードに記入し、学習が進んだ段階で、それぞれのイメージを広げ、さらにグループでまとめるといったカードの使い方をした。実践3では、学習計画表の活用で、それぞれが活動の見通しを立て、課題をもち、主体的に活動することができた。

個人またはグループで目標を書かせたり、イメージしたことを書かせるなどの学習カードや学習計画表の活用は、児童が音楽活動をする上で、立ち止まり理解し先へすすむプロセスとして重要なことである。

## 3 お互いのよさを認め合う学習形態の工夫

### (1) お互いのよさが認め合えるようなグループ活動と発表の場の設定

アンケート調査の中には、「発表することが好き」という回答もかなり多い。それとともに、「友達の発表を聴くことが好き」という回答も多い。児童の心情を生かしながら、発表の場をなるべく多く設けることにより、発表する立場や聴く立場の両方を経験でき、お互いのよさを認め合えることができるようになった。それぞれの実践授業では、児童が自信をもって活動できる教材の選択、中間発表などを取り入れ、友達の演奏のよいところを自分たちの演奏に生かせるようにした。さらに、一人一人の意見を認めるような教師のことばかけや児童の立場にたった支援を行った。また、児童が相手を思いやる発言ができるような環境作りに努めた。

### (2) 安心して活動できるための雰囲気づくり

アンケート調査の中には、「友達にいろいろ言われる。一人ではつまらない。恥ずかしい」など他の人とのかかわりに関係のある理由がみられる。これは、まわりの人から認めてもらいたいという気持ちの表れとも考えられる。このことから、児童一人一人が安心して活動でき、お互いのよさが認め合えるような音楽の授業の雰囲気づくりを大切にしたい。

小グループの学習形態を取り入れることにより、自分の役割に責任をもち、グループでの話し合いをすることによって、一人一人の個性を生かした活動ができるようになった。

このように主体的に音楽活動することによって、児童一人一人の思いや願いが生かされ、生き生きとした音楽活動がみられるようになった。

### Ⅲ 実 践 例

#### 【実践1】 第3学年

#### 題材 「ひびき合いを感じて」

— 友だちの声をききながら、わらべうたを歌おう —

#### 1 研究主題と本実践との関連

「児童の思いや願いを大切にし」というところから、現在の音楽の授業への思いや願いを把握するために、4～6年生の児童にアンケートを取った。その結果、低、中学年で取り入れたわらべうたが楽しかったという回答が多かった。確かにわらべうたであそびながら歌っている顔は、生き生きしている。6年生でも好きな曲にわらべうたとともに、合唱曲もあがっていることから、歌うことは嫌いではないと考える。

そこで、低学年で学んだわらべうたを生かし、いかに中学年の合唱の導入にうまく結び付けていけるかを考えた。また、グループ活動を取り入れることによって生き生きと活動できると考え、グループでの発表を取り入れた。

#### 2 本実践における指導の手だて

##### (1) 題材の工夫

###### ◎わらべうたを使った教材

低学年で学習したわらべうた「どんどんぼし」「なべなべ」「ほたるこい」を思い出して歌いながらあそんだ後、オスティナートをつけたり、カノンで歌うなどの発展したかたちを提示して、興味をもたせる。

##### (2) 学習過程の工夫

###### ◎無理なく合唱へつなげるために、段階をふんだ活動

- ①ユニゾンでうたう ②リズムオスティナートをつける ③オスティナートをつける  
④カノンでうたう ⑤部分二部合唱 ⑥二部合唱

###### ◎わらべうたであそぶ場所の設定

一教室の中で、わらべうたのあそびがスムーズにできるように、スペースを確保する。

##### (3) お互いのよさを認め合う学習形態の工夫

###### ◎グループ学習形態による主体的活動

好きな曲を選択し、グループに分かれて練習する時間を設定する。何度も練習を重ねることによって、旋律を聴くこと、合わせることを意識することができる。

###### ◎発表の場の設定

発表の時間を設定することによって、他のグループのよさを認め合い、合唱に興味をもたせることができる。

#### 3 題材の目標

- (1) 互いの歌声や楽器の響きを聴き合って、表現する。  
(2) 旋律の重なりに興味をもち、グループで楽しんで歌う。

#### 4 教材名

わらべうた 「どんどんばし」 「なべなべ」 「ほたるこい」 「あめこんこん」

#### 5 学習内容

- (1) 主旋律とオスティナートを合わせて歌う。
- (2) カノンで歌う。
- (3) グループで発表する。

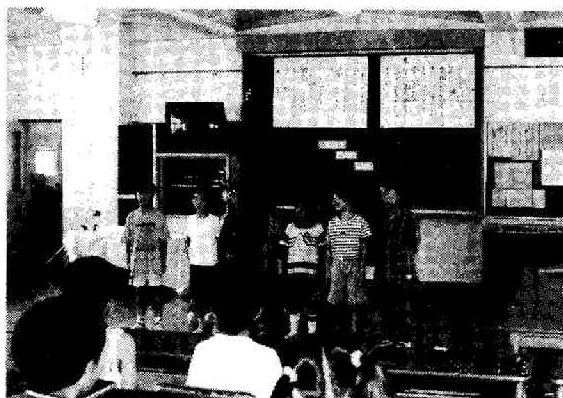
#### 6 題材の評価規準

- (1) 声や音の重なり合う響きに関心を持ち、楽しんで聴いたり表現したりしている。
- (2) 旋律の重なりや響きを感じ取り、バランスを工夫して表現している。
- (3) 拍の流れによって、音程やリズムを正しく演奏することができる。
- (4) 友達の表現のよさを感じ取って聴いている。



なーべーなーべー  
そっこぬけっ♪

でだしを  
あわせよう!



きんちょうするなあ☆

ドキ  
ドキ

題材「ひびき合いを感じて」  
～友だちの声をききながら  
わらべうたを歌おう～

わらべうた  
「どんだんばし」「なべなべ」  
「ほたるこい」「あめこんこん」  
3年生  
指導計画（5時間）

<題材の評価規準>  
(1)声や音の重なり合う響きに関心を持ち、楽しんで聴いたり表現したりしている。  
(2)旋律の重なりや響きを感じ取り、バランスを工夫して表現している。  
(3)拍の流れによって、音程やリズムを正しく演奏することができる。  
(4)友達の表現の良さを感じ取って聴いている。

第1次（2時間）      第2次（1時間）      第3次（2時間）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>「どんだんばし」「なべなべ」「ほたるこい」のオスティナートのリズムや旋律を理解する。</li> <li>互いのパートのリズム・音程・歌い方などが、友達と合うように気を付けて歌い、歌あそびの楽しさを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループの発表を聴いて、友だちのよいところを見つけて、自分たちの歌に生かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「どんだんばし」「なべなべ」「ほたるこい」をつなげて、カノンのおもしろさを感じて歌えるようにする。</li> <li>カノンとオスティナートを使って「あめこんこん」を三部で歌えるようにする。</li> </ul>	
	<ol style="list-style-type: none"> <li>丸くなって、3曲のわらべうたで、楽しくあそぶ。</li> <li>オスティナートのリズムを手や打楽器で叩いたり、旋律を、リコーダーで吹いて覚え、歌えるようにする。</li> <li>主旋律とオスティナートを合わせて歌えるようにする。</li> <li>カノンで歌えるようにする。</li> <li>グループをつくり、3曲の中から好きな曲を選んで、グループで練習をする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>グループごとに、リズム・音程・歌い方・バランスなどのめあてをもって、練習をする。</li> <li>グループごとに発表をする。</li> <li>各グループの発表を聴いて、それぞれのグループのよいところを発表し合う。</li> <li>次のめあてを考える。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>3曲をつなげたカノンを理解して歌う。</li> <li>「あめこんこん」を、カノン唱→オスティナートと主旋律→カノンとオスティナートと主旋律、というように段階をつけて、三部合唱で歌えるようにする。</li> <li>違うパートの音を意識しながら、カノンやオスティナートをつけ、わらべうたを楽しんで歌えるようにする。</li> </ol>	
場の工夫	<p>わらべうたで遊ぼう</p>	<p>グループで楽しく練習</p>	<p>発表会をしよう</p>	<p>みんなで三部合唱に挑戦</p>
	支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽しく活動できる雰囲気づくりをし、あそぶスペースを確保できるような場の設定をする。</li> <li>範唱を聴いて、自分勝手に歌ったり、友達の声が聞き取れないほどの大声で歌わないよう助言する。</li> <li>無理なく歌える姿勢が大切なことに気付かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループの中で、音がそろわなかったり、リズムが合わなかったりする児童がいる場合は、お互いに協力できるようなアドバイスをする。</li> <li>発表の際は、前にでて、堂々と発表できるようにする。</li> <li>聴いている児童からは、積極的にプラスの評価が出るように促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3曲つなげるため、混乱しないように、それぞれの曲をイメージした絵を黒板にはる。</li> </ul>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>わらべうたで、楽しくあそぶことができる。</li> <li>オスティナート、カノンを理解できる。</li> <li>歌詞や発音に気を付けて、明るい声で楽しく歌うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お互いのパートの重なりや響きを感じ取って、バランスを工夫しながら歌っている。</li> <li>他のグループのよいところを見付けながら聴くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音の重なり合うおもしろさを感じ取っている。</li> <li>違うパートの音を意識しながら、楽しんでわらべうたを歌うことができる。</li> </ul>	

## 8 考察

本実践では、既習のわらべうたをつかって、合唱へつなげるためにカノン唱やオスティナート唱を学習した。その中で、友達の声と合わせることを意識したり、聴きながら歌うことの楽しさを感じることができた。

### (1) 題材の工夫

#### ◎わらべうたを使った教材

アンケートの結果に基づき、児童が興味を示したこともあり、また、2音、3音、4音で構成され、リズムも単純にできているわらべうたを合唱の導入に取り入れた。1、2年において、これらの曲を学習しており、思い出しながらあそんだり、1段階進んだ学習ということをはじめに提示したので、無理なく楽しく学習することができた。

### (2) 学習過程の工夫

#### ◎段階をふんだ活動

ユニゾンで歌う→リズムオスティナートをつける→旋律のオスティナートをつける→カノン唱をする

ユニゾン→児童対教師→児童対児童

このように段階をふみ、徐々に他の旋律と合わせるということに慣れていった。

#### ◎わらべうたであそぶ場所の設定

机をコの字型にし、真ん中にあそびのスペースを取ることによって、すぐにあそびの活動にうつることができた。今回、グループで練習するとき、同じ教室内で活動することは、自分たちの声が聴き取りにくいので、他の教室や、廊下などを使うなどの工夫が必要であった。しかし音楽室のまわりには教室がないため、これはいつも抱えている課題である。

### (3) お互いのよさを認め合う学習形態の工夫

#### ◎グループ学習を取り入れた主体的活動

はじめてグループごとの合唱に取り組んだが、グループごとによく練習していた。しかし、グループ活動をしたとき、進度に差ができ、めあてを達成したあとの活動を用意していなかったため、何をしてよいのかわからない児童の姿があった。さらに一歩進んだめあてを用意しておくことや、グループをかえて活動させるなどの工夫、また児童だけで先の見通せるように学習カードを用意するなどの工夫が必要であった。

#### ◎発表の場の設定

これまでグループごとの発表は、合奏でしか行っていなかった。この題材ではじめてグループごとの合唱発表をした。発表するということで練習も熱心に取り組み、緊張感をもって発表していた。また、他のグループの発表を聴くことによって、どのようにオスティナートやカノンが聴こえるかを感じ取ることができ、友達のよさを認め合うことができた。

その他今回の活動では、出だしの音をリコーダーで取らせていたが、Aの音では、地声では高く、頭声的発声では低く、中途半端な高さであった。もう少し楽に、発声できる高さにすれば、児童も取り組みやすかったと考える。

本実践を通して、ただ元気に歌うだけが良いことではなく、他の児童の声を聴き、合わせるということを意識するようになった。今後も、この意識を大切にしながら、カノンやオスティナートをを使った曲を数多く歌わせることによって、無理なく、楽しく、二部合唱へとつなげていきたい。

<なべなべ>

なべ なべ そこぬけ そこがぬけたらかえりましょ  
 そこぬけ そこぬけ そこぬけ そこぬけ

<どんどんばし>

どんどんばし わたれ さあわたれ こんこがでるぞ さあわたれ  
 わたれ わたれ わたれ わたれ

<ほたるこい>

ほたるこい やまみちこい あんどのひかりをちよつとみてこい  
 こいこい こいこいこい こいこいこい こいこいこい  
 こいこいこい こいこいこい こいこいこい こいこいこい

<あめこんこん>

あめこんこん ゆきこんこん おらえのまえさたんどふれ  
 あめこんこん ゆきこんこん おらえのまえさたんどふ  
 おてらのまえさちよつとふれ あめこんこん ゆきこんこん  
 れ おてらのまえさちよつとふれ あめこんこんこんこん

## 【実践2】 第4学年

### 題材 「イメージを広げて表現しよう」 — ぼくたちのチキチキバンバン号で旅をしよう —

#### 1 研究主題と本実践との関連

アンケートの結果、児童は、いろいろな楽器に触れてみたい、いろいろな楽器を演奏できるようにになりたい、みんなで楽しく合奏したい、という思いをもっている。

グループでの合奏を取り入れる事によって、①自分の役割が明確になり責任感が育つ②旋律やリズムなどを注意して演奏することにより、演奏技能が向上する③友達とのかかわりを深めることで、助け合い、協力する態度が身につくと思われる。

児童がつくっていく曲の中で、表現豊かに仕上がっていく満足感が、音楽に対する関心・意欲をさらに高め、より生き生きと活動すると考えた。

また、この題材では、単に合奏するだけではなく、教材性を生かして自由に《音づくり》をする部分を取り入れることで、曲に対するイメージを広げ、音楽を表現する力をのばせるように指導していきたいと考えた。

#### 2 本実践における指導の手だて

##### (1) 題材の工夫

###### ◎教材の選択

本教材は、教科書教材で音も取りやすく、軽快なリズムで親しみやすい。また、「チキチキバンバン」は映画の中に出てくる車の名前であり、解体寸前の車を大改造したところ、空を飛び、海を走る夢の車になったという空想物語であるので、児童が喜んで取り組める教材であると考えた。

##### (2) 学習過程の工夫

###### ◎楽器奏法にあたっての基礎・基本の大切さ

- ・楽器の基本的な音の出し方、扱い方を知る。
- ・楽器の音量を工夫する。
- ・拍を合わせる。

###### ◎学習カードの活用

合奏のルール、音づくりにあたってのヒントカードを提示する。

###### ◎視聴覚機器の活用

ビデオをみて物語を知ることにより、楽しみながら曲へのイメージを広げ、それを生かして、音づくりの表現の工夫をする。

###### ◎表現する力の育成

- ① 各自でイメージしたものを音具や楽器で音づくりする。
- ② グループごとにイメージを膨らませながら、ふさわしい音色を工夫する。





◎グループごとに学習できる場所の設定

一つの教室の中で全グループが活動するのではなかなか音が聴き取りにくいので、スタジオ1～4などの他教室に分かれて活動できるよう学習環境を設定した。

(3) お互いのよさを認め合う学習形態の工夫

◎グループ学習による主体的活動

グループ学習することによって友達とよりよくかかわることができ、主体的に活動することができる。

◎発表の場の設定

グループごとの発表を設けることで、他のグループのよさや工夫したところを認め合うことができる。

### 3 題材の目標

- (1) 友達と協力しながら楽しく合奏を工夫する。
- (2) グループで「チキチキバンバン号」のイメージを広げ、音づくりをすることによって表現力を高める。
- (3) 聴き合う活動を通して、お互いのよさを認め合う。

### 4 教材

「チキチキバンバン」(リチャード・シャーマン/コバート・シャーマン作曲)

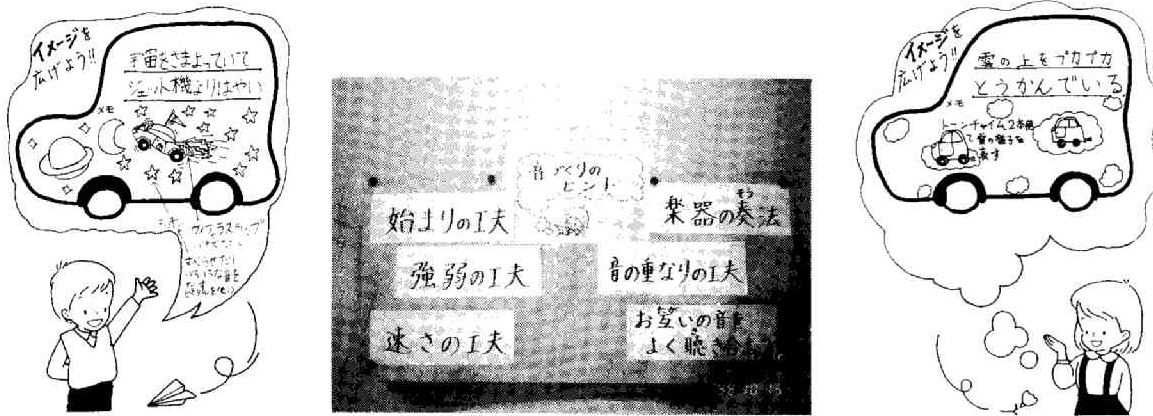
### 5 学習内容

- (1) 「チキチキバンバン」の歌唱をする。
- (2) 全員で主旋律を階名唱したり、リズム打ちをしたりする。
- (3) グループごとに合奏する。



- (4) 「チキチキバンバン」のビデオをみることによって、一人一人がそれぞれのイメージをもつ。

(5) イメージをもち学習カードを書きながら、音をつくるためのいろいろな要素に気付く。



(6) グループで、自分たちのチキチキバンバン号のイメージを膨らませ、それを学習カードに書きこみながら、音で表現する。

スタジオ(1)

イメージを上げよう!!  
このチキチキバンバン号は、星の機織りの中をのんびり走っている。

スタジオ(2)

イメージを上げよう!!  
シングルをさまようチキチキバンバン号

スタジオ(3)

イメージを上げよう!!  
海の中を走っていて、ガリリンは、空気でまわります。この車は海の中でも走ることができる。チキチキバンバン号です。

スタジオ(4)

イメージを上げよう!!  
カーレースでチキチキバンバン号

男1. 金まきで2回、低い音から徐々に木原を2回たたく。  
男2. 7リケット音(カンカンカン)間なし  
男3. トーンチャイム(間を4拍)ながらなる  
女4. タンバリン2つ  
女5. マラカスで横にふる と5拍で合図する  
女6. ガッガッパンドルして3拍なる。

男1. (F#) F#で音を出す。  
男2. 音を出す。  
男3. 音を出す。  
女4. 音を出す。  
女5. 音を出す。  
女6. 音を出す。  
女7. 音を出す。

男1. (F#) F#で音を出す。  
男2. 音を出す。  
男3. 音を出す。  
女4. 音を出す。  
女5. 音を出す。  
女6. 音を出す。  
女7. 音を出す。

(7) グループで発表し、お互いに聴き合う。  
(8) グループのイメージの音をつなげて、クラスの「チキチキバンバン号」の演奏をする。

### 6 題材の評価規準

- (1) 意欲的に自分のイメージを音で表現し、グループで協力し合って活動している。
- (2) イメージに合う演奏の仕方や楽器の組み合わせを工夫している。
- (3) 自分の担当楽器を演奏でき、イメージを膨らませて、いろいろな音で表現できる。
- (4) お互いの演奏を聴き合い、友達の演奏のよさや工夫したところに気付いている。

題材「イメージを広げて表現しよう」  
～ぼくたちのチキチキバンバン号で旅をしよう～

「チキチキバンバン」  
4年生  
指導計画（11時間扱い）

<題材の評価規準>  
(1)意欲的に自分のイメージを音で表現し、グループで協力し合って活動している。  
(2)イメージに合う演奏の仕方や、楽器の組み合わせを工夫している。  
(3)自分の担当楽器が演奏でき、イメージを膨らませて、いろいろな音で表現できる。  
(4)お互いの演奏を聴き合い、友達演奏のよさや工夫したところに気付く。

	第1次（1時間）	第2次（3時間）	第3次（3時間）	第4次（4時間）		
ねらい	・ 拍の流れを感じ取ったり、曲の雰囲気をつかんで、生き生きと歌う。	・ 曲の雰囲気を感じ取り、楽器の組み合わせやバランスに気を付けて合奏する。 ・ 自分のパートに責任をもつ。	・ 鑑賞を通して情景を想像し、イメージを広げる。 ・ 自分の「チキチキバンバン」号のイメージを構築しイメージに合った音楽をつくる。	・ 自分たちのイメージにふさわしい音色を工夫し、「チキチキバンバン号」を発表する。 ・ それぞれのグループが工夫したよいところを発表し合う。		
学習活動	(1) 「チキチキバンバン」の範唱を聴く。 (2) 主旋律、リズムの音取りをする。 (3) 拍感を身につけるために、リズムリレーをする。 (4) 「チキチキバンバン」を歌う。	<グループ学習> 友達とよりよくかかわる				
場の工夫	音楽室 <27人> 	スタジオ1 <7人> 	スタジオ2 <7人> 	スタジオ3 <6人> 	スタジオ4 <7人> 	音楽室 発表会 
支援	・ 旋律のまとまりを感じ取りながらイメージを膨らませて歌えるように、歌詞表を掲示する。また、姿勢に気をつけて歌うよう助言する。 ・ 主旋律を生き生きと歌えるようにするために、歌いやすい高さに移調する。 (合奏は、ハ長調・歌は、ト長調)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループ内で協力し合って合奏練習できるようなグループ分けをする。</li> <li>・ グループ活動がしやすいように、4教室の練習場所を用意する。</li> <li>・ 各グループが同時に活動できるよう、楽器の種類や数をそろえて、各教室の中央に置いておく。</li> <li>・ 合奏のルールの掲示。</li> </ul> <p>●リーダーが合図をする ●お互いに目や動きを見たり、音を聴いたりしながら合わせる。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自信をもって発表したり、友達に工夫したことを理解してもらえるように、温かい雰囲気をつくる。</li> <li>・ 発表に際して、よい意見が出るよう、めあてをもって聴くよう促す。</li> <li>・ 各グループの曲が一つにつなげやすいように、楽器の配置、手順について助言する。</li> </ul>	
評価	・ 歌詞の内容を理解し、自分なりの情景のイメージをもつことができる。 ・ 範唱を聴き、主旋律を覚えて、リズムのつて、生き生きと歌っている。	曲を仕上げるためにグループで協力して活動している				
	・ 楽器の基本的な音の出し方、扱い方を知る。 ・ 楽器の音色を生かして、曲想にあった速度や強弱を工夫している。 ・ おぼろしく続ける心をもつ。	・ 場面に合った音づくりを工夫し、よりイメージに近いものをつくらうとしている。	・ イメージを膨らませ、グループで協力し、意欲的に工夫をしながら音づくりをしている。 ・ お互いの演奏を聴き合い、友達演奏のよさや工夫したところに気付く。			

## 8 考 察

本実践では、グループ学習の中に一つの曲としての合奏を仕上げることで、その後イメージをもって音づくりをするという2つの段階をおって学習活動を行った。その中で、みんなで演奏できるようになりたい、イメージした音を出してみたいという思いをもって、友達とのかかわりを通して、工夫しながらつくっていく喜びを感じることができた。

### (1) 題材の工夫

◎児童一人一人が活躍する場があり、児童にとって自分の存在感もてる授業が大切であると考えた。グループでの取り組みでは、一人一人が大切なパートをもち、合奏と音づくりを通して自分自身の存在が確かになり、毎回音楽室に来ることを楽しみにして活動できた。

### (2) 学習過程の工夫

◎視聴覚機器を活用することで、曲への関心を深め、楽しく導入することができた。さらに音づくりへと学習内容が広がった時、動機付けにもなり、さまざまなイメージがでてきた。

◎楽器奏法にあたっての基礎・基本については、全員で拍に合わせてリズム打ちをしたり、それぞれの楽器の基本的な音の出し方を学習したりしたことで、合奏の時だけでなく、音づくりの時も楽器を大切にできた。また、いろいろな方法を考え、音を出すことへの可能性が広がった。さらに、合奏のルールや音づくりにあたってのヒントの提示により、ポイントをおさえながら、練習することができた。

### (3) お互いのよさを認め合う学習形態の工夫

◎グループ学習は、いろいろなグループ分けが考えられるが、今回は合奏曲としての「チキチキバンバン」を演奏するという大きな目標が先にあったので、音楽的能力のバランスのとれたグループに分けた。楽器決めや、実際の練習においては、お互いに協力しながら、学び合う姿勢が見られた。

◎発表の場を設けたことは、児童にとって励みにもなり、充実感が得られた。それぞれの意見や感じ方を知ることができ、お互いを認め、思いやる心をもつことができた。また、クラスの曲として一つにまとめたことで、お互いに共感しながらつくっていくことができた。

一つの教材に対して、一つのことだけを活動の場として考えるのではなく、児童はあらゆる場でいろいろなものを吸収している。今後さらに、教材の開発をし、児童の思いや願いを積極的に発揮していける音楽活動の場を考えていく必要がある。

題材 「グループアンサンブルを楽しもう」

—わたしたちの変奏曲になるように—

1 研究主題と本実践との関連

5年生は、これまで「ふしと低音」という題材でふしに合う低音を選び、それぞれのパートに合う楽器を選んでグループアンサンブルをするということを経験してきた。その中で、自分たちの工夫を生かすことができるということ、また友達と合わせることが楽しいということから、「またグループアンサンブルをやりたい」という意見が多かった。

そこで、「一人一人の思いや願いを大切に」ということから、合奏の仕方を提示し、児童が自由に選択し、イメージにあった楽器を選んだり、合奏の工夫をしたりする活動へと発展させたいと考え、本題材を設定した。また、友達の演奏を聴いて友達の工夫を見付け、それを児童が自分たちの演奏に生かせるようにしたいと考え、発表の機会を設けた。そして、最後にグループでつくった合奏を主題でつなげてクラスの変奏曲にすることにより、つくりあげた喜びを共有させたいと考えた。

2 本実践における指導の手だて

(1) 題材の工夫

◎教材の選択

I, IV, V (V7) の和音で表現できること、また、児童になじみのある易しい曲であるため、いろいろな工夫をしやすい。

◎イメージにより変奏する。

児童の思いや願いを生かすためにマーチ風、ラテン風、ロック風、ワルツ風、モール風などの曲想を選択させ、そのイメージに合うように曲を変奏し、楽器の工夫をする。さらに、グループの変奏をつなげることによって、クラスの変奏曲にし、完成した喜びを共有する。

きらきら星

和音は 2つの音にしてもよい。

(2) 学習過程の工夫

◎適切な資料の提示

児童がイメージをもちやすいように、「ちょうちょ」を使って、マーチ風、ラテン風、ロック風、ワルツ風、モール風にシンセサイザーでつくった曲を聴かせる。また、自分が選択したイメージのグループに分かれたあと、一人一人がそれぞれのイメージに合う4小節のふしをつくる際、「きらきら星」の5つの伴奏パターンを用意し、ふしをつくりやすいようにする。

「わたしのきらきら星をつくらう」  
5年 のりのりロック班

「わたしのきらきら星をつくらう」  
5年 ワルツ班

◎学習計画表の活用（自分たちで学習の見通しがもてる）

学習計画表に活動のヒントを細かい段階でのせることで、児童が学習の見通しをもつことができるため、児童が課題をもってグループ活動を進めることができる。

また、つまずきなども学習計画表によって教師が把握し、次の支援へとつなげることができる。

学習計画表「きらきら星」

5年

月日	全体の学習計画	活動のヒント	自分のめあて	よかったこと、困ったことなど	先生から
7/7	・「ちょうちょ」の5つの演奏例を聴き、雰囲気の違いを感じ取る。 ・自分のイメージを決める。	・5つのイメージマーチ、ワルツ、ラテン、ロック、ひらひらモール	自分のイメージを決める。		
9/9	・自分のイメージに合った旋律を1人でつくる。 ・グループで旋律を決める。	・メロディーのリズムを覚える。	自分のイメージに合った曲を決める。	自分の考えでアレンジして、くわいたのでよかったです。みんなよくできてました。	おげらしい！それだけかかるとはじめてできたね。
9/14	・グループでパート分けをする。 ・楽器を決める。 ・練習する。	・メロディー、和音、リズムは必ず入れる。	低音のかわきを決めた。	みんなかわきかきまいたのでよかったです。	楽器を決める所は、よく次はどんな合奏をしよう。
9/17	練習	・練習をして聴いてみる。	みんな合奏でかっこよくする。	合奏でよくかきまいたけど、おもしろいかな。	よくはいとこが、あったらどんなにかかっているかな。
9/20	練習	・中間発表をする。 ・さらに工夫をする。	完70キにさせよう。	〇〇かまかかっけ、だから、みんなよくかきまいた。	発表してまちがえしたところ、発表では合奏でかきまいた。
9/21	発表	・落ち着いて演奏する。 ・友達の良いところを聴き取る。	みんなの演奏を聴く。	自分自身かまかかっけ、みんなよくかきまいた。	みんなよくかきまいた、合奏で演奏できました。

◎グループごとに学習できる場所の設定

1つの教室の中で全グループが活動するのではなかなか音が聴き取りにくいので、音楽室、準備室、生活科室に分かれて活動するよう学習環境を設定した。

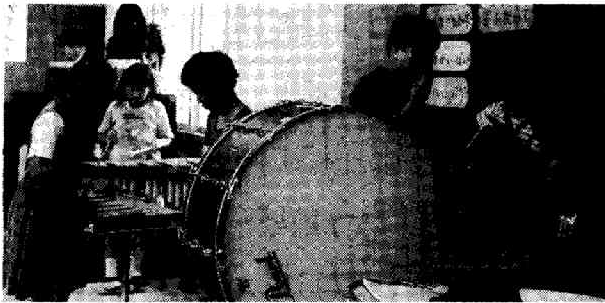
(3) お互いのよさを認め合う学習形態の工夫

◎グループ学習を取り入れる。

グループ学習形態にすることにより、一人一人が責任をもってパートを受け持ち、また、グループでの話し合いが重要になるため、一人一人のよさがみえてくる。

◎発表の場の設定

友達のよいところを自分たちの演奏に生かすことができることから、練習の過程で中間発表をする。



よかったねカード

5年

# 発表を聴いて、よかったところやもったところの方がよいところを書きましょう。

のりのり ロック 班	△△君の中はいい。とミンパレみたいなゆっが ツツッがよかった。 木きん の2人は合えていた。
ライン★ 班	しっぱいしたけど、また、さつうに も心れた。だがかつきが、ラテンっぽくて よかったです。
マーチ 班	ハバはいと大だいいが、マーチでかんで とてもいい。 バランスもよかった。 ○○さんの音もよ 聞こえた。
ひらひら モル 班	メロディーが聞こえにくい。 小さい音のほうか、それらしいけど、ちよと小さすぎ。 和音のほうか、大きいけど、そのほうか いいかも。
ブル 班	全体的にも、と音が大きくなったほうか、 いいと聞け。 ロンドンも聞いてよかった。

# あなたが工夫したことを書きましょう。  
ゆで足は、  
をはずして。 **てっきん**  
お利音が 大きすぎないようにした。  
テンポをゆるめないようにした。

3 題材の目標

- (1) グループアンサンブルに意欲的に取り組み、合奏の楽しさを味わうようにする。
- (2) 自分たちのイメージに合うように、グループで合奏の仕方を工夫する。
- (3) お互いの発表を聴き合って、よさや工夫したところを認め合う。

4 教材名

「きらきら星」 フランス民謡

5 学習内容

- (1) 自分たちのつくりたい曲のイメージをもつ。
- (2) 自分たちのイメージに合った「きらきら星」をつくる。
- (3) グループで分担し、協力しながら旋律や伴奏の工夫をする。
- (4) グループごとに合奏の発表会をする。

6 題材の評価規準

- (1) 合奏することに興味をもち、友達と協力して曲をつくらうとしている。
- (2) 自分たちのイメージに合った表現の工夫をしている。
- (3) 自分たちのイメージに合った旋律や伴奏をつくって演奏している。
- (4) 友達の発表を聴き、工夫したところやよさに気付く。

題材「グループアンサンブルを楽しもう」  
～みんなの変奏曲になるように～

「きらきら星」  
5年生  
指導計画（6時間扱い）

<題材の評価規準>  
(1)合奏することに興味をもち、友達と協力して曲をつくらうとしている。  
(2)自分たちのイメージにあった表現の工夫をしている。  
(3)自分たちのイメージにあった旋律や伴奏をつくって演奏している。  
(4)友達の発表を聴き、工夫したところやよさに気付く。

第1次（1時間）

第2次（4時間）

第3次（1時間）

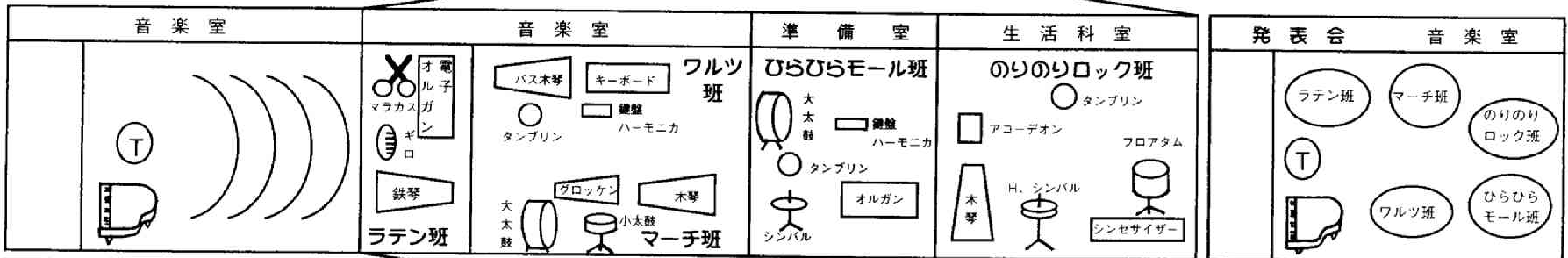
ねらい  
学習活動

・「ちょうちょ」の5つの演奏例を聴き、雰囲気の違いを感じ取り、自分の演奏したい「きらきら星」のイメージを膨らませる。  
(1) 「きらきら星」を鍵盤ハーモニカで演奏する。  
(2) 「ちょうちょ」の5つの演奏例を聴き、工夫することによって、いろいろな雰囲気の「ちょうちょ」が演奏できることを知る。  
(3) 自分なりの「きらきら星」のイメージをもつことができれば、5つのグループに分かれる。  
マーチ班・ワルツ班・ラテン班  
ひらひらモール班・のりのりロック班

・イメージにあった旋律やリズムを班で話し合いながら、ワークシートを使って、グループアンサンブルを工夫し、自分たちの「きらきら星」をつくる。  
(1) 自分のイメージにあった旋律を一人一人で作ったあと、旋律を持ち寄り、グループ内で発表し合いながら、グループの旋律をつくっていく。  
(2) 各グループで使いたい楽器を選び、担当者を決める。  
(3) 生活科室、音楽室、準備室に分かれて練習する。  
(4) 録音したり、中間発表をしたりして、演奏を聴き合い工夫を重ねる。なお、録音の際は、他のグループは音を出さないように協力する。

・自分たちのつくった「きらきら星」を、グループごとに発表し、聴き合う。  
(1) 自分たちのつくった「きらきら星」をグループごとに発表し合い、友達の演奏のよいところや、もっと工夫した方がよいところを見付け、学習カードに記入する。  
(2) 「きらきら星」の主題をグループの演奏の間に入れて、自分たちだけの変奏曲をつくる。  
例：主題→マーチ→主題→ワルツ→主題→ラテン→主題→ひらひらモール→主題→のりのりロック

場の工夫



支援  
評価

・「ちょうちょ」を使って、5つの演奏例のテープをつくって聴かせ、これからの活動のイメージをもつことができるようにする。  
・児童一人一人の思いを大切にするために、グループの人数が偏ってもよいことを伝える。  
・一つの曲を様々に変化させて合奏することに、興味をもつ。  
・それぞれの曲想を感じ取り、自分のつくりたい曲のイメージをもつことができる。

・グループに分かれたあと、イメージをつかみやすくするために、いつでもリズム伴奏の音楽が聴けるよう、カセットを用意しておく。  
・ピアノは弾けるがエレクトーンは無理という児童は、足を使わず左手をベースにしたり、いきなり曲に入るのが難しいマーチ班は、前奏にドラムマーチを入れたりというように、つまずきが見られるような場合は、児童の意欲を大切にしながら、アドバイスをする。  
・試行錯誤しながらも、友達と協力し合ってイメージに合った楽器を選択したり、演奏の工夫をしたりしている。  
・友達の演奏を聴いて、お互いに意見交換をして、自分たちの演奏に生かそうとしている。

・グループでの活動がつまずいた時に、自ら課題解決ができるよう、＜練習の手順＞や＜アドバイスカード＞を作成する。  
・グループ発表の際、積極的にプラスの評価が児童の中から出るよう、めあてをもって聴くように促す。  
・自信をもって発表し、進んで友達のよいところを見付けようとしている。  
・自分たちだけの変奏曲をつくったことによって、よりグループアンサンブルを楽しんでいる。



## 8 考察

本実践では、「友達と音楽をすることが楽しい」という児童の思いや願いを大切にし、友達と工夫しながら音楽をつくっていくグループアンサンブルを行った。その活動によって、一人一人が自分の役割に責任をもつとともに、いろいろな意見を出し合う中でお互いのよさを認め合うことができ、一人一人が生き生きと音楽活動できた。

また、同じ曲ではあるが、グループごとに異なるイメージの合奏をするということで、お互いの演奏に関心をもって活動できた。

### (1) 題材の工夫

#### ◎教材選択

「きらきら星」は、やさしい曲なので一人一人が容易に取り組むことができ、一人一人がイメージに合ったふしをつくることができた。また、曲を変化させたいという意欲にもつながり、楽しくイメージに合った曲をつくることができた。

#### ◎イメージによる変奏

マーチ風、ラテン風、ロック風、ワルツ風、モール風などの曲想を選択することにより、児童の思いや願いが生かされ、生き生きと活動できた。

### (2) 学習過程の工夫

#### ◎資料の提示

「ちょうちょ」の曲で、いろいろな楽器を使った演奏を聴かせることによって、5つのイメージをつかみやすかった。また、一人一人が自分のイメージのふしをつくるため、「きらきら星」の伴奏テープは大変有効であった。

#### ◎学習計画表の活用

学習計画表によって、活動の見通しがもてたことで、一人一人が課題をもちやすく、グループごとに主体的に活動できた。また、今どんなことにつまづいているかを教師が把握できるので、練習の手順などをアドバイスカードで示すなど、次の活動への適切な支援ができた。

#### ◎活動場所の工夫

音楽室、準備室、生活科室と活動場所を分けたことで児童が伸び伸びと活動ができた。しかし、音楽室は3つのグループになってしまったので、ほかのグループと交代するなど工夫が必要であった。

#### 練習の手順

- ①パートごとに練習する。
- ②パートの成果を聴き合う。
- ③グループ全員で合わせる。
- ④気づいた点をあげる。

### (3) お互いのよさを認め合う学習形態の工夫

#### ◎グループ活動と発表の場の工夫

お互いのよいところを認めるとともに、それを自分たちの演奏にも生かすということから、中間発表を設けたところ、友だちの工夫をたくさん見つけることができた。

今後の課題としては、適切なめあてをもてない児童への支援の仕方を工夫すること、また、前時に工夫したことを確認してから次の活動へとつなげるということがあげられる。

## IV 研究の成果と今後の課題

### 1 研究の成果

楽しそうな表情でのびのび歌っている児童、楽器の演奏に真剣なまなざしで取り組んでいる児童、友達といっしょに協力してつくりあげた合奏を終えて満足そうな児童、友達の演奏を耳をすまして聴いている児童、など、生き生きと音楽にかかわり活動をしている児童の姿を願い、本研究は始められた。

児童が授業の中で生き生きとした音楽活動をし、満足感や達成感を味わうには、教師が児童の側に立ち、児童一人一人のもっている音楽に対する思いや願いを受け止め、大切にしていけることが重要である。そのために、どのようにしたら児童の思いや願いが生き生きとした主体的な音楽活動につながるか、「題材の工夫」「学習過程の工夫」「お互いのよさを認め合う学習形態の工夫」の視点から指導の手だてについて研究を進めてきた。

その結果、各実践を通して以下のような成果を得ることができた。

- (1) 児童の思いや願いを生かせる題材を設定し、児童の実態に合った教材を選択することによって意欲的に音楽活動に取り組むことができた。
- (2) 学習活動の中で、具体的な活動の「めあて」を明確にすることによって、児童が課題意識をもち、工夫して表現することに対して喜びを見付け、よりよい音楽活動を目指そうとする態度が見られた。
- (3) 学習環境の整備、視聴覚機器の活用、複数の教室を活用することによって、児童は楽しみながら効果的な学習を進めることができた。
- (4) 学習カードを活用することによって、児童一人一人が学習状況や学習過程をふりかえりながら主体的な学習を行うようになった。
- (5) お互いのよさが認め合えるような学習形態を工夫し、グループ活動や発表の機会を設定することによって、聴き合い、お互いのよさを生かし、共に協力してつくり上げようとする学習態度が育ってきた。

### 2 今後の課題

今までの成果を基に、児童が更に生き生きとした音楽活動をするためには次のような課題がある。

- (1) 児童の思いや願いを生かした題材、児童の実態にあった教材の工夫を更に進め、年間指導計画を見直す。
- (2) 児童の関心や意欲を引き出し、主体的な音楽活動につなげるような教師の適切な支援や言葉かけについて工夫を進める。
- (3) 児童が友達とのかかわり合いの中で、音楽活動をする喜びや楽しさを味わえるような学習形態を更に工夫する。